

議 事 録

- 1 会 議 名 平成27年度第1回さぬき市男女共同参画推進協議会
- 2 日 時 平成27年5月14日(金) 13:30～15:30
- 3 場 所 さぬき市役所302会議室
- 4 出 席 者 上原委員 柿木委員 亀井委員 木村委員 小山委員
多田委員 筒井委員 橋本委員 南田委員 宮本委員

(事務局) 白井課長 津村係長
- 5 傍 聴 者 0人
- 6 会議次第 1 開会
2 会長あいさつ
3 議事
 (1) 平成27年度男女共同参画推進活動事業スケジュールについて
 (2) 男女共同参画週間行事について
 (3) 市民企画事業募集について
 (4) 男女共同参画プラン進捗状況調査について
4 その他
5 閉会
- 7 配布資料 資料1 : 平成27年度男女共同参画推進活動事業(案)
資料2 : 平成27年度男女共同参画週間行事について
資料3 : 平成27年度男女共同参画推進活動事業「男女共同参画セミナー」
 実施要項
資料4 : 市民企画事業募集要項
資料5 : 「第2次男女共同参画プラン」推進施策の実施状況調査票

8 議事の経過及び発言要旨

発言者	意見概要
事務局	<開会 13:30> ただ今から平成27年度第1回男女共同参画推進協議会を開催します。 4月の人事異動で新しく政策課長となった白井より御挨拶申し上げます。
政策課長	<挨拶>
事務局	それでは会長から御挨拶いただき、そのまま進行をお願いします。
会長	<挨拶> それでは 議題1 平成27年度男女共同参画推進活動事業について事務局は説明をお願いします。

事務局	<説明>
会長	県と行う講演会だが、大山市長、県からは知事が出るのか。
事務局	その予定でスケジュール調整をしている。ただ、いったん決まっても、急遽、変更となる場合も想定される。当面は、関係自治体の首長が集まって、生の意見交換をする企画となっている。
会長	その他の自治体はどうなるのか？
事務局	関係4団体の首長と、内閣府職員に声かけをすることを想定している。ただ、本決まりではないので、決まり次第、正式に募集する。東かがわ市、三木町へも参加者を募るように声かけする。
委員	どういう層に来てもらいたいのか。
事務局	市民や行政、教育関係に幅広く関わっていただきたい。
委員	話す内容をある程度詳しく事前に周知しておかないと、話を聞きに来る人は少ないのではないかと。首長が話すことは決まっているだろう。
事務局	企画が決まったら、出演予定者にアンケート調査などを行うこととなるので、市民に対し、事前にどの程度の内容を周知できるのかもあわせて、今の意見は県に伝えておく。ただ、首長が並んで、「こういうことをやっていくんだ」と示すことはとても大きな意味はあると思う。
委員	東かがわ市であれば、例えば、地元製薬会社の社長などの行政とは相対する人を入れて8人ぐらいのパネルディスカッションなら面白いかもしれないけど、行政の代表だけでは全然おもしろくない。どんな話をさせても。誰が聞きに行くのか。市長が出るからと、どこかの会の会長とかがきてもなんの意味もない。企画としては一見面白いが、賛同しかねる。個人的には。
会長	観客がふむふむと、感心するようなことをトントンと入れてくれればすごく盛り上がると思う。トップが揃うということはめったにないので、それはそれで絶対に価値があると思うし、そこで発言したことには責任をもってもらおうという意味でも重要だ。コーディネーターの力量が問われるだろう。
委員	日程の都合もあるだろう。市長の代行できました、では、なんの発表もできないだろう。そこらあたりも考えないといけない。
会長	県が主催の会だし、きちんとスケジュールは押さえて打合せもしてくるだろう。
事務局	パネルディスカッションは、まだまだ案の段階である。スケジュールがあわないなどの不都合があれば、一般的な講演会の開催に変更する予定だ。
委員	否定的な発言ばかりでもうしわけない。

事務局	<p>副会長がおっしゃることもすごくよくわかる。ただ、初めての取組にチャレンジすることに意義はあると思っている。やり方については、登壇者の組み合わせも含め、御意見を踏まえながら県と考えていこうとは思いますが、企業がきても、パネルディスカッションのような正式な舞台に登壇すれば、「女性の活躍に向けてがんばっています」といった発言が主となることは想定できる。でも、だからといって「言うことはきくと決まっているからする必要はないんじゃないの？」となれば、何も始まらないと思う。だから、県と話し合う中で、まだまだ検討することはあるが、首長に集まっているだけでのパネルディスカッションに取り組んでみてもいいのではないかと個人的には思っている。せつかく、県と一緒にやるイベントなので、委員の皆さまからいろいろな意見をいただきたい。こんなことを聞いてみたい、などでもいい。</p>
委員	<p>まずは自分の足元がどうなのか、男女共同参画社会を実現するために、日々どのようなことをすればいいのか考える必要がある。会を開催すると、男性から役割が決まる。女性は遠慮する。私はいつも人数から、女性が担うべき割合を計算している。だいたい26%。この目標を上回るためには、女性がもっと社会に出て声を出さなければいけない。家庭内だけではだめだ。こういう場でも女性が意見を出して、具体的にどうするかを決めていかなければいけないだろう。さぬき市は、条例などの理屈はできている。でも、地域での生活に戻れば、あまりピンとこない。それをどうしたらいいのかの今の私の悩み。新聞を読むと、養護教諭が町議会議員になり、彼女が議会で取り組んだことは、お茶くみや、食べ後の片づけを女性にさせるのではなく、自分でやること。これはとても具体的で、論的なことではない。さぬき市でも、このような具体的な取組が目に見えるようになればいいと思っている。</p>
会長	<p>女性委員は積極的に発言するようにしてください。それでは、スケジュールについての議題はこのへんでよいか。</p> <p>それでは、次の議題にうつる。男女共同参画週間行事について事務局は説明してください。</p>
事務局	<p><説明></p>
会長	<p>ご質問があればお願いします。</p>
委員	<p>ポスターだが、みんなで描かないか？「男女ともに助け合う」という呼びかけるためにどんな絵がかけられるのか、自分の思いを描けばいいと思う。具体的に言えば、日ごろ、家の中で、黙って女性が取り組んでいることはたくさんあると思う。それが当然になって。それを少しでもこの絵に訴えることで、男女が助け合うことを呼びかけられればいいと思う。今までは、中学生がポスターを描くことが中心だったが、形が決まってきた気がする。それはそれでやるとして、私たち委員で、今の男女の分断をどうしていくのがいいでしょうか？ということ問える絵をみんなで描いて、それを並べてみてはどうだろうか。みんなで一度話し合ってみないか？</p>
会長	<p>大人がポスターに参加することに意義はあると思う。全員描いて、となると難しいとは思いますが、皆さんいかがか。絵の良し悪しは関係ないと言われても、気になる人は気になるだろうから、希望者だけでもいいのか。</p>
事務局	<p>事務局が答える内容ではないとも思うが、こちらはかまわない。名前を伏せることも可能だ。絵はどうか、と言う方は川柳とかでもいいと思うし、作業場としては20</p>

	2会議室を使っていたらいい。
会長	初の試みということで、描いてみようかな、とか、いい川柳を思いついた、という方は、ぜひ作品にしてください。パネル展の開催に当たっては、毎回、切ったり貼ったりという細かい作業がたくさんあったと思うので、御都合のつく方は協力をお願いしたい。
委員	何時ごろから会議室は使えるのか？画用紙などは準備してくれるのか？
事務局	平日の8時30分から使える。必要なものを言ってくれば準備する。
委員	セミナーだが、去年は食べ物があったと思うが、今年はないのか。ずきんだけではなんだか寂しい。
事務局	防災グッズを展示できるかどうかは検討してみる。
会長	針関係はいろいろなことに気を使わなければいけない。食べるものはないが、自分で作ったものを持って帰れるのは大きな魅力であると思う。
委員	針をさわる男性はいないと思う。女性も少ないだろう。それで30人も集まるのか。
事務局	サポーターの企画会議では、50人程度は楽に集まるだろうと言っていたが。
委員	スタッフは何人なのか？
事務局	11人程度の予定だ。
委員	友好翼の会出身のサポーターは、全員参加できなくなったと聞いた。
事務局	初めて聞いたが了解した。その件については後ほど協議したい。
会長	続いて、議題3の市民企画事業募集について説明をお願いします。
事務局	<説明>
会長	質問をお願いします。
委員	政策課で、上限50万円の補助金を出す事業があったとおもうが、あれとは違うのか。
事務局	それは、地域活性化支援事業であって、本事業とは違うものである。
会長	昨年度の市民企画事業は、お手元の報告書にまとめているのでご覧ください。
委員	去年の内容はこれでいいが、実施した団体が一堂に会して話し合ったほうがいい。それぞれ個別の事業だが、趣旨からいうと、どこかでつながっているはずだ。みんなを確認しあえる機会をぜひ設けてほしい。

会長	反省会をしたほうがいいのか。
委員	反省会というよりも、こういう企画に集まってきた団体が一堂に会して話し合うことが、こういう事業を広める土台になると思う。どこかで、団体同士の共通項を見出してあげるといいうバックアップ体制をひいてあげるといいと思うのだ。
委員	企画事業に参加しながらも、他の団体がどういうふうなことをしているのかが見えていないのが実情だと思う。それぞれが、さぬき市の男女共同参画活動の推進に参画しながら何も知らないという状況では、大きな推進力で前に進んでいくことは難しい。単年度で終わってしまうのではなく、次の年度につながる、もしくは、自分たちの活動を振り返りながらさらに大きな力でさぬき市の男女共同参画を推進していく、という視点から考えても、先ほどの委員の提案に賛同する。ぜひ実施してほしい。
委員	できることなら、企画事業を始める前に、こういう意欲でありますということ、終わってからは、こうだった、とか、なかなか難しかったといった話し合いが出来ればいいと思う。前に進んでいく力がある人たちが集まれる場をつくっていくことに意味があると思う。
事務局	パネル展の会場づくりのときなどに、実施団体に集えるような呼びかけができるかどうかを考えてみたい。自由な会話が必要だと思うのでぎっくばらんな場づくりに努めたいが、参加する実施団体の気持ちになって、どのような会のスタイルがいいか意見が欲しい。
委員	参加団体はすべて、パネル展の準備に来ると思うので、自分たちの報告書を貼るときに話し合えるのではないのか。
委員	そのとおりだが、過去を振り返ってみると、それぞれがバラバラにやってきて、模造紙だけを持参して作業に参加しないところもある。行政が、話し合いを行うことを声かけしてくれればできるとは思うが。
委員	どこも男女共同参画の推進の視点をもった事業なので、自分が所属していない団体の企画も紹介したかったのだが、その情報がなかったのでできなかった。できれば、どこがどういったことをするのかの情報交換ができる機会があれば、都合が合えば行きあって、参考になると思う。
事務局	パネル展の準備作業への参加の案内は全団体にしているが、お勤めされている方であれば来なかったり、都合によって会場に来る時間がバラバラになっていたりした。今年度は、この日の何時に集合、各団体1名以上は来てください、という声かけにさせていただくことを検討したい。それでも来れない団体もあるとは思うが。
委員	設営のときではなくて、展示物を作るときではどうか。そのほうが話しやすい気がする。
事務局	ただ、展示物づくりは期間が長い。みんなが集えるようにするには、決め打ち日を作る必要がある。展示物づくりの会場は狭いので、他の会場を準備することになる。
委員	企画事業を実施する前に、横のつながりをつくっておくほうがいい。

事務局	つながりの作り方だが、団体同士で連絡をしあうのであれば、代表者の氏名と連絡先を交換しあう必要があると思う。採択されれば、実施団体同士で個人情報の交換が必要、となれば、初めて応募しようとしている団体にとっては、応募のハードルが上がることになりはしないか。
会長	パネル展の設営には、採択時期から考えて、今年度の採択団体は来ないはずだが、撤収日はどうか。
事務局	設営は、6月19日なのでまだ決まっていない。撤収日の6月29日は微妙なところだと思われる。ヒアリングの日程調整次第だ。今の話を総合すると、横の連携を作るということと、自分が所属する団体以外がどのようなことをいつやるのかを事前に知っていればそこにも行けるということだと思うので、撤収作業を6月29日の午前中に行うので、できる限りこの日までに採択結果ができるように準備を進めてみて、可能となれば、今年度の採択団体と26年度実施団体に、6月29日の10時に来てください、と案内して、交付決定書の手渡しと意見交換ができるようにしたい。採択団体には、喫緊に電話で案内することとなるので、急な案内になるとは思いますが、もし、選定の手続が間に合わなければ、29日以降に、交付決定書の手渡しと意見交換をする日を設けて、団体同士で顔合わせができるように努めてみます。
会長	プレゼンテーションのときに、今後の予定を伝えておけば大丈夫であろう。事務局は、準備をお願いします。では、次にうつる。議題4、男女共同参画プランの進捗状況調査について、事務局は説明をお願いします。
	<説明>
委員	数値目標は、毎年比較できるように、用紙を横にして全ての年度を書き入れられるように工夫したことはいいと思う。取組項目は数多くあるが、全てを書いた方がいい。男女共同参画は全ての分野に関わっているということをご皆さんに分かってもらうためにも、単なる数値目標の結果だけではなく、全ての取組内容を記載したほうがいいと思う。資料5の裏面だが、人権の尊重と男女共同参画の意識づくりの項目の中で、男女の人権を理解し、尊重する意識を啓発する講演会の開催が、平成24年度は0回だったが、これは、人権教育課が人権推進課と別れていたからか。
事務局	人権推進課として、男女共同参画をメインテーマにした講演会をしていない、という意味だと思う。
委員	人権推進教育に関連して、男女共同参画に関する講演会を聞いたり、講師を務めたことがある。所管が教育委員会部局になるので、人権推進課としてはゼロということか。
事務局	平成24年度であれば、学校教育課の人権教育と人権推進課は一緒になっていた。人権推進課として把握していなかったことが考えられるが、そこは再度調査する。
委員	比較しやすいように、参考値で、25年度も入れてはどうか。
事務局	より比較できやすいように、25年度も入れるように努めたいが、内部で調整させていただく。

委員	<p>今まで使っていた 25 年度の実績の表を見て思うのだが、これではあまり意味がないように思う。政策課がしている男女共同参画社会形成のための情報提供で、具体的取組が市広報紙への情報提供、市ホームページへの情報提供、CATV への情報提供とある。同じ内容を載せないといけないとも思うし、進行管理票の実績は全然関係ないことが書かれている。この整合性はどこになるのかな、と思う。この方法自体がこれでいいのかな、と一般市民として思う。</p>
事務局	<p>指標は、難しいものがある。この指標が重要かどうかも含め、項目を並べれば並べるほど難しくなる側面はある。</p>
委員	<p>足元の結果がでてくればいいと思う。広報紙での啓発をしました、その結果はこれで見ると。どれだけの人が洗濯物をたとんでいますか、とか。</p>
事務局	<p>計画の見直し時、4年に1回程度、市民アンケートをとっている。ここでの回答の伸びを重視している。日々の生活の中で感じていることが表に出てくるからだ。同じ人を対象とした追っかけアンケートではないので、回答者は変わる。その分、アンケート結果の伸びが鈍くなることもあるが、男女共同参画社会の実現には、個人の思い、考え方が大きく関わってくるので、幅広い調査は必要だと考えている。委員ご指摘のように、プランに書いている取組をすれば足元から男女共同参画社会が実現するのか、と聞かれれば、かなり難しいことだと思うが、不十分なりにも推進活動を継続することは大事だと思っている。この調査結果を通して、委員の皆さんからは、その活動の内容が適切かどうかについて意見をいただき、その意見を各課に返しなが、まだまだ不十分であることを共有しつつ取組を継続していきたいと思っている。</p>
委員	<p>男女共同参画プランは、行政がやることを書いているものなのか。</p>
事務局	<p>第2次プランには、冒頭のさぬき市の未来図を実現するために、市がやることや、市民や事業所といった、各主体に取り組んでいただきたいことを書いている。ただ、市は、率先して取組を進めるべきであるので、施策の実施状況調査については、まずは自らの取組を見直すために市が行ったことを書き、数値目標進行状況調査において、市民アンケート結果などを用いて、自分たちがやってきたことの結果を振り返る、市民への浸透度を確認するという流れとしている。先ほどから出ている、例えば、家庭内で状況を見るとすれば、アンケートを取る際に、例えば、昔に比べて夫が洗濯物をたともうになりましたか？などの項目をいければ市民の状況を見ることができるとも知れないと思う。</p>
委員	<p>市議会議員の意識はどうなっているのか。だいたい選挙をやる人は、地区の老人会や婦人会、あるいは組織をバックに持っている人は強い。男性は、たばこでも吸いながら、選挙の話をして活動している。男女共同参画はさぬき市では進んでいると言われているが、女性が女性を本気で、あの人を出せよ、さぬき市の女性の意見を出せよ、と、婦人会などと一緒に立候補させる動きにならないのか。今のところ、私が知っている人で組織のバックがないのは1人で、当選しているが、なぜ2人目、3人目が出て来ないのか。男女共同参画の推進、と、行政も議員も言っているが、実態はこういうことだ。自分の夫に物を言うことばかりではだめで、さぬき市議会の3分の1は女性にするというような市にならないといけない。そのために何をするかを考えたほうがいい。家族がどういうふうになっていったかを見るということは、いいこともあるだろうが、我々の生活にはあまり関係がないように思える。それよりも、今回の選挙</p>

事務局	<p>で女性議員が5人にもなった、というほうが、さぬき市は変わるで、という印象を受けると思う。</p> <p>よく分かる。市民アンケートを見ても、女性の政治参画への要望が強くていて。そのような意識を少しでも高めていただけるように、講演会をしたり、他の自治体の例を示したりしている。</p>
委員	<p>実現できるように、横の連携ができる組織を作ってほしいのだ。さぬき市で社長やお店をやっている女性の会を作ってもらって、こんな差別を受けながら私はこういう風に頑張ってきた、という会話ができる会をあっちこちに作ってほしい。県からも、市町に男女共同参画推進室を作るように指導してほしい。3年から5年を目標に。そのために何をするかと言えば、さぬき市では、婦人会の強化と、子育てしているお母さん方をどう組織化するかが大事だと思う。私は、男性が子育てを手伝ったり、洗濯や家事を手伝うことも男女共同参画に必要だということを知っているが、それだけの意識だけでは、男性も女性も変わらないと思う。なぜ、女性を応援する組織ができないのか。それができるような仕組みづくりが必要だ。行政がすべきかどうか、行政でできるかどうかは分からないが。</p>
委員	<p>非常に難しいと思う。女性自身が心理学を学ばないといけないだろう。女性自身も感じているだろうが現実はそのようではない。今、さぬき市で女性校長は1人しかいない。かつては10人くらいいた。教頭も1人しかいない。来年になったら女性校長はいなくなるのではないかと、との話もでている。なぜ減ってきたか、ということや、女性校長がいなくなるかもしれないという危機感を現場がどれくらい持っているのかと思う。先ほどの話だが、例えば、政治に参画する人数が少ないから増やそうということは、何度もどこでも言っている。ところが、現実には増えない。その原因が何なのかはわからない。なので、女性心理学を研究する必要があるのかなと。ひょっとしたら、女性は男性のように割り切れずに、非常に複雑な心理状況があるのではないのか。</p>
委員	<p>女性女性と言うが、女性になったら足を引っ張る。その辺で、即、女性がその世界に入ったら、すごく根付きにくいという空気があるのかも知れない。全体の空気は大事だ。女性が管理職になると、空気が変わる。男性も女性も一緒なのだが、やはり、男性社会と言われていたところに入った時点で、理屈では言い表せられない、様々なものを犠牲にしてやっていかないとそこで生き残れない。その犠牲が多くなりすぎたら、それでもやっていくか、だから辞めるか、という選択をして決断してきた人たちをたくさん見てきた。それが現実だ。女性の心理学というのではなく、社会とも違うのだが、そこそこで空気が違うので、そこが非常に難しい。大きいところではなくて、小さな枠で変わっていかないと、全体は変わっていかない。</p>
委員	<p>女性の問題は、多くは個人の問題になってしまう。個人の問題ではなくて社会的な問題が多くあるにもかかわらず、個人の問題にしてしまっていて、あの人はどうだ、となって終了する。今日、テレビで、プレミアムくるみんのお話が出ていた。子育てを応援する企業のさらに上をいく企業に対してプレミアムくるみんマークを渡すというもの。企業で女性が働き続けられて、昇給し、管理職になっていくというのは、個人の努力だけでは到底難しい。そこに現実問題として、育児のため退職していく人が多くなった。そこで初めて会社が考えて育休をとりやすくし、男性も育休をとろうと働きかけ、更に、育休をとったあとに復帰しやすくするというのを、企業という組織ぐるみで女性が働きやすい、管理職になりやすい企業をつかっていった。しかし、多</p>

	<p>くはそうはできない。男性が育休をとろうもんなら後ろ指を指されるのが現実で、育休を公務員がとれば、あれは公務員だからとれるんだ、との非難の言葉が起こる社会条件の中で、なかなか難しい。だからこそ、男女共同参画の中で取り組む女性の問題を、個人の問題にするのではなく、社会の問題として取り組んでいかなければ男女共同参画の実現は難しいと思う。ちなみに、香川県の企業の女性社長の割合は、全国3位。それぐらい、企業の中では女性のトップは多いのだ。でも、重要会議に出ているのは、男性が多い。子育てに関する審議会であってもほとんどが男性だ。そういう状況は、女性がもっと頑張れではなく、社会全体の問題として捉えていかないと、推進は遠くなる。単に、女性が男性の仕事を手伝う、男性が女性の仕事を手伝うといった手伝い感覚だけでは男女共同参画の実現は難しい。要は、社会問題としてとりあげてほしいということだ。</p>
委員	<p>さきほどの政治のこともそうだが、女性が進出している国を日本もある程度手本にしないと、今のままの硬直した状態がずっと続くと思う。今の日本人の考え方を見ると、割と保守的になりつつあるし、変わらないんだろうなと思う。だから、フィンランドなどの北欧の女性がいかにして男女平等を勝ち取っていったかというのを見ると、政治の世界で早くからクォーター制を導入しているというのは大きいと思う。国が方向転換したわけで、日本がどこまでやるかだが、今の政府に期待していてもそれは望めないかなと思うので、下から上にどういうふうにもその思いを届けていくかだ。とても難しいと思うが、手本を見ながら、割合を高めていく施策を要求していくことを地道にやっていかないといつこうに埒があかないと思う。でも、何十年か前、私が務めていた職場でも、20年前と今ではずいぶん変わったなと思うこともある。喫煙の問題もそう。職員室でたばこを吸うのが普通だった。女性教員がいくら別室でとお願いしても、何を言ってるんだこの女は、という態度だった。組合役員として職員会議でも何度もお願いしたが、すごくバッシングを受けた。女がこんなことを言うようになったから日本の国の教育が悪くなった、というようなことも言われた。そんな時代がずっと続いた。でも今は、たばこを吸う人の方が肩身が狭いような感じに変わった。地道に取り組んだ成果と、世界全体の流れの両方があいまって、変わってきたのだと思う。人は、どこかでふと気づくときがある。人も社会も変わる可能性があると思えば、諦めないで取り組むことが大事だと思う。</p>
委員	<p>男女共同参画の正反対のところにいたので、いろいろなところから啓蒙されて、やっと、理屈じゃなくて感覚的にも感じないとダメなんだということが分かった。個人の問題ではなくて社会の問題として感じないといけないことなんだと感じている。</p>
委員	<p>企業はトップ次第だ。トップの考えを変えないと何も変わらない。</p>
委員	<p>最近女性に対する言葉づかいが難しい。我々が若いときに言っていたようなことを言えば大変なことになる。それだけ時代が変わって、難しくなってきた。ある会社の中で働く男性管理職の意見では、女性は叱ると泣く、男性はビシビシ言ってもついてくる、と、この新聞記事に書いてある。</p>
委員	<p>たまたまその会社ではそうだったのかもしれないが、半分は固定観念なのかもしれない。</p>
委員	<p>社会の問題として捉えるのも必要だが、それ以上に個人の意識がしっかりしていないとダメだと思う。出張中、子どもが緊急入院することになったとき、あとの仕事は</p>

	<p>引き継ぐから私は帰る、と言った。上司からはものすごく叱られたが、それでクビにするならどうぞしてくれ、と言った。そういうふうな揺るがない意識がないと変わらない。昔の日本人のほうがそういうことができた気がする。仕事だから仕方ない、と言いつつするようではダメで、個人の意識は重要だし、そういう意味でも、トップの意識は重要だ。</p>
事務局	<p>男女共同参画の問題は、個人の問題と社会的な構造的な問題があって、そこにある、働き方であったり、貧困であったり、様々な課題が複雑に絡み合っていると思う。市民アンケート結果や審議会での議論を聞くと、男女がともにいきいきと暮らすことは誰もが望んでいることであり、だからこそ、委員の皆さまも様々な応援くださるのだと感じている。進捗状況調査結果を見たり、委員の皆さまの意見を伺うたびに、これでいいのか、と焦ってくるが、市として、不十分ながらも、様々な角度からボールを投げながら、個人の思いと社会的構造を変えていけるように取り組んでいきたいと思っている。進捗状況調査票については、今日の意見を踏まえ、政策課で最終調整するが、大きくは、このスタイルでいいということによろしいか。</p>
会長	<p>そうしてください。よろしく申し上げます。それでは、最後ですが、その他として、事務局から事務連絡などはありますか。</p>
事務局	<p>特段ありませんが、お手元に置いてある「暮らし応援BOOK」ですが、26年度の市民企画事業で、いきいき市民の会明風が作成したものです。1冊ずつお渡ししますので、今後の活動にお役立てください。</p>
会長	<p>以上で、第1回男女共同参画協議会を閉会する。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">＜閉会 15 : 30＞</p>